



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第64回)



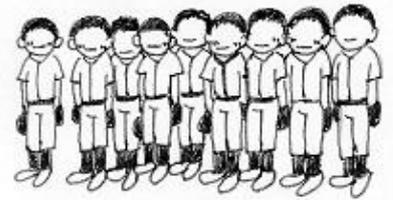
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 ガッツポーズをしない

第88回全国選抜高等学校野球大会は本県から明石商業と長田の2校が、ともに初出場し、大いに盛り上がった大会となりました。大会の1回戦で、釜石(岩手)と小豆島(香川)の対戦は、21世紀枠対決であったことに加え、プレー以外の面で注目を浴びていました。釜石の選手たちに高校野球の神髄を改めて気づかされた気がします。

第88回選抜大会開催期間中に発刊されたスポーツ新聞で、「ガッツポーズをしない」チームに関する記事を読みました。「相手チームに敬意を払うため」ということです。試合開始前の攻守交代決定時の指導事項に、派手なガッツポーズやハイタッチは厳に慎むというものがあり、その趣旨を十分理解されたチームの行動であったことに、ただただ敬意を表するばかりです。



選手の感情が行動に表れることを全て否定するつもりはありませんし、時として感情の表出が仲間の鼓舞に繋がることもあり、その躍動がまた高校野球の良さともいえると思いますが、常に「相手あつての試合」という気持ちを失わない選手、チームであって欲しいと思います。

ルール編 投球時の起点となる塁は?

走者一塁、セットポジションをとった投手が投球動作を開始する前に一塁走者が盗塁を試み、二塁に到達した。その後、打者が投球を打ったがファウルボールとなった。二塁に到達した走者は一塁に戻るのか?

これまでは、二塁に到達した走者を一塁に戻し、試合を再開することとなっていました。2016年度から解釈が変更されています。

「投球動作の開始前までに走者が占有した塁をリタッチの起点とする」との解釈となりました。従って、上記の例では、投球動作の開始前までに二塁に到達しているので、走者二塁で試合を再開することになります。もちろん、二塁到達前に投球動作が始まっていれば、リタッチの起点は一塁となります。

